

## 【基礎編】第14回 総まとめ：ケーススタディと目標設定

### ◆ 研修資料(受講者配布用) ◆

#### 1. はじめに：知識を「実践の力」へ

ABA基礎研修、お疲れ様でした。皆さんはこの研修を通して、子どもの発達を支えるための専門的な知識と技術、そして専門家としての心構えを学んできました。

最終回である本日の目的は、それらの断片的な知識を、実際の支援場面で使える「統合された力」へと昇華させることです。そのために、一人の子どもの事例を通して、アセスメントから支援計画の立案までの一連の流れを、皆さんのがんばりで実践していただきます。

これまで学んだ全ての「道具」を、自分の道具箱から取り出し、使いこなし、そして、仲間と協力して一つの支援の形を作り上げる。この経験が、皆さんの専門家としての大きな自信となるはずです。研修の最後には、これまでを振り返り、皆さんの今後の成長に繋がる個人の目標を設定します。

#### 2. ケーススタディ：Aくんの支援について考えよう

##### 【事例紹介】

- 名前：Aくん（5歳・年中）
- 利用状況：週3回、児童発達支援を利用。普段は保育園に通っている。
- 主訴（保護者からの相談）：
  - 保育園で、お友達とのトラブル（おもちゃの取り合い、叩いてしまうこと）が増えてきて心配。
  - 家では、自分の要求が通らないと、床にひっくり返って10分以上泣き叫ぶことがある。
  - 言葉の発達がゆっくりで、気持ちをうまく言葉にできないことが、トラブルの原因になっているのではないかと感じている。

##### 【アセスメント情報】

- 認知・言語：
  - 発語は「ママ」「ブーブー」「いや」などの単語を中心。二語文はほとんど見られない。
  - 絵カードのマッチング（同じ絵を選ぶ）は可能。簡単な指示（「〇〇とって」など）は理解できる。
- 対人関係・社会性：
  - 人への関心があり、支援者の後についてくるなど、関わりを求める様子は見られる。
  - 他の友達が遊んでいると、じっと見ていることはあるが、自分から関わっていくのは苦手。
- 好きなこと（強化子候補）：
  - ミニカー（特に救急車）で遊ぶこと。プラレール。シャボン玉。体を動かすこと（特に高いところからのジャンプ）。

##### 【具体的なエピソード（ABCデータ）】

- 場面①：自由遊びの時間。Bくんが楽しそうにプラレールで遊んでいた。Aくんは近くに行き、Bくんが使っていた先頭車両を無言で取った。Bくんが「返して！」と泣くと、Aくんは持っていた車両

でBくんの腕を叩いた。支援者が仲裁に入り、Aくんを別の場所に連れて行った。

- 場面②:おやつの時間。おかわりを欲しがり、空になったお皿を支援者の前に置いた。支援者が「おやつはおしまいだよ」と伝えると、Aくんは椅子から転げ落ちるように床に寝転がり、手足をバタバタさせて大声で泣き叫び始めた。10分後、あまりに泣き止まないため、支援者がゼリーを一つだけ渡すと、泣き止んでそれを食べた。
  - 場面③:SSTの時間。「順番」をテーマに、一人ずつオモチャのマイクで自己紹介をする活動。Aくんは自分の番が終わった後もマイクを離さなかった。支援者が「次のお友達にどうぞしようね」とマイクに手を伸ばすと、Aくんは「いや！」と言ってマイクを強く握りしめた。

## 【グループワーク課題】

上記のAくんの事例について、あなたのグループで支援チームとなり、以下のステップで支援計画を立案してください。

### Step 1: アセスメント(現状分析)

- 問題となっている行動（標的行動）を、具体的・客観的な言葉で2つ定義してください。
  - エピソード①～③を参考に、それぞれの標的行動についてABC分析を行ってください。
  - ABC分析から、それぞれの行動の機能（目的）は何であるか、仮説を立ててください。

## Step 2: 支援計画の立案

4. それぞれの問題行動に対して、教えるべき代替行動は何ですか？
  5. 先行事象への介入（環境設定など）として、どんな工夫ができますか？（問題が起きにくくするための予防策）
  6. 後続事象への介入（分化強化など）として、どんな対応を計画しますか？（代替行動を強化し、問題行動を強化しないための対応）

### Step 3: 保護者・園との連携

7. この支援計画について、保護者や園の先生にどのように説明し、どんな協力をお願ひしますか？

### 3. これまでの振り返りとこれからの目標設定

- これまでで、あなたができるようになったこと、成長したと感じることは何ですか？
    - (例:ABC分析の視点で子どもの行動を見られるようになった、保護者の話に傾聴できるようになった、など)
  - 現在のあなたの課題は何ですか？もっとうまくなりたい、学びたいと感じることは何ですか？
    - (例:SSTの進行、個別支援計画の目標設定、とつさの時の応用力、など)
  - 今後、職員として、どんな専門家になりたいですか？そのために、明日から具体的に何を始めますか？
    - (例:○○に関する本を月1冊読む、先輩の支援を意識的に観察し質問する、など)

## ◆ 講師用原稿 ◆

(スライド1: タイトル)

「皆さん、こんにちは。これまでにわたるABA理論基礎研修、いよいよ最終回です。今まで、本当によく頑張りました。この最終回は、テストではありません。皆さん自身が、これまでどれだけ多くの武器(知識・技術)を身につけたか、そしてそれをどう使いこなすかを実感するための、最高の『腕試しの場』です。」

---

(スライド2: はじめに) 10分

「今日のゴールは、皆さんがあなたという一人の子どもの『支援チーム』となり、これまで学んだ知識を総動員して、彼の未来をより良くするための支援計画を立案することです。ABAの原理、アセスメントの方法、プロンプト、SST、保護者連携…これまでの17回の研修で学んだ全ての引き出しを開けて、最高のプランを練り上げてください。正解は一つではありません。皆さんのチームで、子どもの幸せを一番に考えた、創造的なアイデアが生まれることを期待しています。」

---

(スライド3: ケーススタディ説明) 10分

「(スライドの事例を読み上げながら、ポイントを解説)

ここに書かれている情報は、皆さんが現場で出会う情報の断片です。行間を読み、書かれていない背景を想像することも、アセスメントの一部です。例えば、Aくんが叩いてしまう行動の裏には、どんな『伝えたい気持ち』が隠されているでしょうか？彼の視点に立って、考えてみてください。」

---

(スライド4: グループワーク開始) 60分

「それでは、今からグループワークを開始します。時間は60分です。各グループで、書記やタイムキーパー、発表者などの役割を決めて、効率的に議論を進めてください。配布したワークシートに沿って、ステップ1から順に検討を進めていきましょう。

私たちは皆さんのテーブルを回り、議論の進行をサポートします。行き詰まつたら、いつでも声をかけてください。それでは、始めてください！」

(巡回中の声かけ例)

- 「この行動の機能の仮説、なぜそう考えたのか、もう少し詳しく聞かせてもらえますか？」
  - 「代替行動、素晴らしいですね！Aくんにとって、それは簡単にできる行動でしょうか？プロンプトは必要ですか？」
  - 「環境設定、良いアイデアですね。それを園の先生にお願いする時、どんな言葉で伝えると、協力してもらいやすいでしょう？」
- 

(スライド5: グループ発表とディスカッション) 25分

「それでは、各グループで立案した支援計画を発表していただきます。他のグループの発表を聞く際は、自分のグループのプランとの違いや、参考にしたい点などに注目して聞いてください。」

「(各グループの発表後、講師がファシリテートする)」

- 「Aグループの『要求の機能を、絵カードの交換で代替する』という案、PECSの考え方ですね。素晴らしいです。」
- 「Bグループは、先行事象の介入として『Bくんと遊ぶ前に、まず支援者と"かして"の練習をする』

というアイデアを出してくれました。SSTの般化に繋がる、プロアクティブな支援ですね。」

- 「どのグループも、保護者連携として『家での成功体験を褒めること』を挙げていました。まさにパートナーとしての関わりです。」

---

(スライド6:3年間の振り返りと目標設定) 10分

「素晴らしい発表をありがとうございました。皆さん、これだけ深く、多角的に子どもの支援を考えられるようになったこと、本当に嬉しく思います。

さて、研修の締めくくりです。少しだけ、自分自身と向き合う時間を取りましょう。(スライドの問い合わせを読み上げる)

お手元の資料の最後のページに、皆さんの今の気持ちを書き留めてみてください。これは、誰かに見せるものではありません。皆さん自身が、今後の道に迷った時にいつでも立ち返れる、未来の自分へのメッセージです。」

(静かな時間を5分程度確保する)

---

(スライド7:まとめと激励) 5分

「皆さん、研修、本当にお疲れ様でした。そして、修了おめでとうございます。

今日皆さんが立てた支援計画に、唯一の正解はありませんでした。しかし、どの計画にも共通していたのは、『Aくんの気持ちに寄り添い、その子の成長を心から願う』という、支援者としての温かい眼差しでした。その気持ちこそが、皆さんのがこの先どんな困難にぶつかっても、決して見失ってはいけない、専門性の核となるものです。」

「この研修は、ゴールではありません。皆さんの長い専門家人生の、ほんのスタートラインです。明日から皆さんには、もう『新人』ではありません。基礎を身につけた、プロの『児童指導員』です。今日設定した新たな目標を胸に、これからも学び続け、目の前の子どもたちの笑顔のために、その力を存分に發揮してください。皆さんのがこれから活躍を、心から応援しています。

ありがとうございました！」